

企画展
安城の今昔1 火消しまいるー消防の歴史と道具ー

会期：2019年4月13日(土)～6月30日(日) 観覧料：無料

人々の歴史の中で人間と火の関わりは切り離せないものでした。しかし火は時として家や財産、人間の命を奪うこともありました。防火・消防は、どの時代でも重要な課題でした。日本は古くから木造家屋のため類焼が激しく、家屋が密集している都市部では江戸時代から消防組織が編成されました。一方で地方の村々では自分たちで防火・消火を行ってきました。

近代以降、国の方針により各地に消防組織が編成されます。

安城でも旧村を単位とした消防組織が作られますが、組織の主体は住民でした。これが今の消防団に繋がっています。



このような消防の歴史と防火や消防の変遷を踏まえ、消防道具を展示します。昭和初期の消防ポンプ自動車(本館蔵)

歴史博物館 常設展

観覧料：一般 200円
中学生以下無料

「大地に生きづく人びとのくらしと文化」を主題に、安城の歴史の流れを10テーマに分けて紹介。矢作川流域の西三河の歴史を、政治・経済・文化の各方面から楽しく学べる常設展示室です。

国指定重要文化財の亀塚遺跡出土人面文壺形土器も展示しています。



人面文壺形土器(本館蔵)

博物館ボランティアによる常設展ガイド

第2・4土曜日 10:00～12:00 / 13:00～15:00

特別展
1964 ー東京五輪がもたらしたものー

会期：2019年7月20日(土)～9月1日(日) 観覧料：一般 400円
中学生以下無料

敗戦を契機に復興を遂げた日本は、その後立て続けに起こった神武景気や岩戸景気といった好景気により高度経済成長期に入りました。そのような中で念願の東京オリンピック招致が決まると、昭和39年(1964)の開催に向け東海道新幹線や高速道路網などの交通インフラ整備も急ピッチで進みました。

東京オリンピックを境にカラーテレビが徐々に浸透し、暮らしにも余裕が出るようになり、消費生活時代へと人々の生活も変化していきます。

今回の特別展では東京オリンピック開催の「1964年」にスポットを当て、当時の人々の暮らしを紹介します。



建設中の東海道新幹線
(安城南中学校附近、本市蔵)

利用案内

[常設展観覧料] 個人200円(中学生以下無料)・団体(20人以上)160円
障がい者手帳等お持ちの方及び同伴者1名様100円
[開館時間] 9:00～17:00(入館は16:30まで)
[休館日] 毎週月曜日(祝日の場合は開館)・年末年始(12/28～1/4)

交通案内

- 名鉄西尾線南安城駅より東へ徒歩10分
- JR東海道本線安城駅より、あんくるバス(1番系統安祥線)川島行き10分
- JR東海道新幹線三河安城駅よりタクシー20分
- 無料駐車場(250台収容)あり



住所 / 〒446-0026 愛知県安城市安城町城堀 30 番地
電話 / 0566-77-6655 FAX/0566-77-6600
URL / <https://ansyobunka.jp/> 安城市歴史博物館



安城市歴史博物館
催し物案内
2019.4-2019.9

ANJO CITY MUSEUM OF HISTORY

国道1号線を走る聖火ランナー(本市蔵)

